

令和元年度 大阪府立むらの高等支援学校 第2回 学校運営協議会 記録

日時：令和元年 10月21日（月） 15:00～17:00

司会：教頭

出席者：学校運営協議会委員

A 委員：大阪国際大学【教授】

B 委員：(株) モンアタッシュエ【代表取締役】

C 委員：大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合【事務局次長】

D 委員：北河内西障害者就業・生活支援センター【センター長】

E 委員：枚方市村野区【区長】

F 委員：本校 PTA【会長】

大阪府立むらの高等支援学校【校長 他事務局 9名】

\* 開会前に委員による授業参観を実施（15:00～15:20）

1 資料の確認および次第説明【教頭】

2 開会の挨拶【校長】

本日より始まった介護等体験実習（関西外国語大学）について紹介。委員の皆様への本日の協議に関するお願いなど。

3 報告

●その1 「令和元年度 学校教育自己診断の概要と診断票」について【首席】

取り組みの趣旨、目的、実施の方法などについて説明した。質問項目については昨年度よりもさらに整理し改善を試みた。実施に際しては共生の登校日に配慮して調整する。集計結果は、第3回協議会に提出する予定。

●その2 「令和元年度 学校経営計画」について【校長】

「中期的目標」の「具体的な取り組み計画・内容」より各項目を拾い上げ、本校における『事故・ヒヤリハット報告書』の取り組み、『スマートフォンを活用した安全安心な学校づくり』の取り組み、『新カリキュラムの検討』についての取り組み、卒業生の『就労定着支援』の取り組み、専門学科における『地域連携』の取り組み、『近知研和歌山大会』への参加、教職員の『業務のスリム化』についての取り組みなどについて報告を行った。

4 協議 【座長：A 委員】

座長：今年度の「学校教育自己診断」について、項目の新設や内容・文言の工夫などがなされたとのこと。保護者の立場でどのように感じられたか？

F 委員：新項目の質問に「…主体的に…」の文言が入ったことは、保護者として好感を持った。

子どもたちには多くの先生方と触れ合う中で社会性を高めてほしい。保護者も積極的に学校に出入りすることで、先生方との交流を深め、子どもたちにとって望ましい学習環境を共に築き上げてほしい。

座長：思いはあっても PTA 活動に参加できない保護者もいる。年 1 回でもその思いを直に伝えることができる「学校教育自己診断アンケート」は有意義といえる。

進路の面に関して意見は？

D 委員：天の川カフェの営業に係る生徒の活動に、社会における賃労働になぞらえて、「黒字の働き」なのか「赤字の働き」なのか等、具体的な学習が加味されればさらに良いと感じる。

座長：協議会の日の授業見学は 3 時ごろ開始のため授業の終盤しか見ることはできないが、生徒たちの表情を直に見ることができるので良い。

C 委員：カフェにおける専門学科製品の展示販売は良い取り組みと感じる。販売するだけではなく、製品の原価率などについても学ぶことができれば良いと感じる。

アンケートの質問項目は概ね良いと感じる。進路の項目における「…考える機会…」とは何を意味するのか？

事務局（進路担当）：生徒にとっては職場実習での経験こそが学びの場。また「キャリアデザイン」の授業ではこうした内容の座学にも取り組んでいる。

C 委員：高等支援学校とは言え「働きたくない」と考えている生徒もいるのでは？ そのニーズについての想定は？

事務局（進路担当）：これまでの卒業生（1、2 期生）には「働きたくない」との明確な意思表示は無かった。本校のアドミッションポリシー（求める生徒像）に倣い、働く意思を持っていることを前提に進めてきたのが現状。ただし、今後は検討が求められるだろう。

座長：授業の見学を通して感じられたことは？

E 委員：とても楽しそうで意欲的に取り組んでいる様子が窺えた。大学生を対象とした「介護等体験実習」の取り組みも、これからの教員の育成のための良い機会と感じた。

B 委員：障がいのある生徒たちは、口では「働きたい」と言っているけれども、働くことについての具体的なイメージに乏しい。働くことで自分の望む生活を手に入れるイメージを持たせたい。

近頃「いじめ」の話題が多く気になっている。話題となっている教員間における事件においても「かわいがる」と「いじめる」の境界があいまいになっていた。子ども同士ではなおさらのこと。当人や監督者たる教員がその境界にいつ気付くのか気になる。このようなケースに備えた対策はなされているか？

事務局（校長）：いじめ対策委員会が全生徒を対象にアンケートをとり、それをもとに迅速な対応を心がけている。

B 委員：生徒は本心で書いているだろうか？

事務局（校長）：本心が書かれているという前提で、臨機応変に対応している。

学校生活の中で不適切な言動を認めた時は、対象者を呼んで迅速に対応している。

座長：就労についての具体的なイメージを持ってない大学生が多い中、むらのの生徒たちはよくがんばっている。

学生が一般の支援学校（知的）で実習をさせていただいた際の感想に、「生徒はもちろんのこと、指導者が楽しそうに授業をしている姿や、何事に対してもただ手伝うのではなく、子どもたちが自力で達成できるように支援し、応援し、成功を褒めるといった指導に感銘を受けた」とあった。

報道などをもとに学校現場に世間の厳しい目が注がれる中、次代を担う学生たちに対して、教師という職業の良さを伝えることができて良かった。

「学校経営計画」についての協議に移る。

『ヒヤリハット』の事例報告による、学校現場における「危機管理意識」の向上を目標とした取り組みを評価したい。いつから開始したのか？

事務局（校長）：今年度10月より運用を開始した。

座長：スマートフォンを活用した防災の取り組み「むらの安心メール」についてのご意見は？

F委員：近々テストメールが送信されるとのこと。どうなるのか楽しみに見守っている。

座長：安心メールへの登録は完了したか？

事務局（校長）：近々その確認作業を予定している。今後100%の登録を目標していく。

座長：他にご意見は？

C委員：働き方改革に沿った「会議を5時までに終了させる」という目標は、実現に向けてかなりの困難を伴うと考える。同じ管理職の立場として、どのように取り組んでいるのか知りたい。

事務局（教頭）：「5時終了」を目標に掲げ、それを超える場合は管理職に報告するというルールを設けることで意識改革を図っている。実際には会議が時間通りに終わっても仕事が終了するわけではないが、勤務時間を5時までと定められている以上、時間外勤務をなくす努力が求められている。「子どもたちのため」との信念を持って時間外勤務を厭わない教員も多いが、推奨できることではない。強制的に禁止することはできないため、終業時刻に声をかけるなど、地道な取り組みを続けている。

D委員：管理職が率先して早く退勤する姿を示すことも大切。私自身も職場で実践している。

事務局（校長）：世間では誤解されやすいが、府立学校の現場に「残業手当」は存在しない。残業時間の記録だけが加算されていくだけ。

D委員：「5時終了」の取り組みなど聞こえが良いが、実際には先生方の残業の実績を目に見えなくしているだけかもしれない。先生方の健康管理も大切なので、現場の苦勞がもっと表に示されれば良いと感じる。

座長：他校の学校運営協議会では、委員の一人（会社経営者）が学校現場における「残業手当無し」の実態を知って驚かされていた。

仕事量自体を減らすことは容易ではないが、効率的な業務分担などによる個々の負担軽減を目標してほしい。

事務局（教頭）：「会議を5時までに終了させる」という取り組みについては、時間延長の申請報告はほぼ100%できている。

事務局（校長）：これは管理職指示ではなく、本校の労働安全衛生委員会からの働きかけで始まっ

たこと。この点が評価に値すると感じる。

座 長：オープンスクールの案内対象を小学校にまで広げたとのこと。実際の参加数は？

事務局（総務）：今年度は10名程度。内訳は教員（主に支援担）が多かった。

座 長：夏休み中の実施は参加しやすくて良い。

事務局（校長）：今年度は夏季休業を利用して近隣の中学校から学校見学の要請があり、大勢の教員の参加があった。

座 長：小中学校との活発な交流が、進路指導の助けとして有効に機能していくことを望みたい。他の委員様からご質問は？

B 委員：卒業生の進路定着支援について、卒業生からの相談はあったか？

事務局（進路）：これまでのところ就職先の企業からの相談はあったが、卒業生の来校はない。ただし、職場の休業日に天の川カフェを訪れる卒業生も多く、それが近況を知る機会となっている。

B 委員：卒業生（本校）の就労先での定着率が98%という数字は素晴らしい。今後の定着への取り組みに期待。

知り合いの会社で勤めていた支援学校卒業生が、急に辞めたいと言い出した。関係機関の支援を得て何とか仕事を続けていくことができたが、本人の思いを事前に察知できなかった反省とともに防止策の必要性を感じる。

座 長：辞めてしまってから気づく例は多い。某支援学校では、卒業生や保護者等が特定のファストフード店に集う取り組みが続けられているらしい。あくまでも自主的な取り組みだが、語らいの中から仕事の悩みを拾い上げることができた例もあったとのこと。

本日の協議会はむらのの学校経営に関する進捗状況の報告が中心だが、今後検討、改善を重ねる中で、子どもたちへのより良いフィードバックを期待する。

他に感想などあれば。

F 委員：先ほど紹介されたファストフード店での集会は、枚方支援学校においてすでに取り組みされている。時には先生方の参加もあり、保護者も力をもらっている。むらのにおいても卒業生がつながりを持つ場ができることに期待したい。

座 長：以上で協議を終了します。

事務局（校長）：長時間にわたって協議頂きありがとうございました。頂いた多くのご意見を、今後の学校運営に活かしていきたいと思えます。

事務局（教頭）：事務連絡

本日の記録は担当者でまとめたうえ委員の皆様にご確認いただき、本校のホームページにアップする予定。

次回（第3回）は1月28日（火）15:00～17:00を予定。